

特集

滋賀県立安土城考古博物館 30年のあゆみ



新撰 淡海木間撰 89

徳川家康画像

INFORMATION STATION **催し案内 2023 冬**

MYBOOK **自費出版物の紹介**

SUNRISE BOOK PRESS **サンライズ出版の新刊案内**

平成4年(1992)、特別史跡安土城跡のそばに滋賀県立安土城考古博物館が開館してから、昨年(2022)で30周年を迎えました。

開館当初から学芸員として織田信長関係の特別展などを担当してこられた高木叙子さんに、これまでの活動を振り返っていただきました。

特集

滋賀県立安土城考古博物館 30年のあゆみ



滋賀県立安土城考古博物館

住 所 近江八幡市安土町下豊浦6678

連絡先 TEL 0748(46)2424 FAX 0748(46)6140

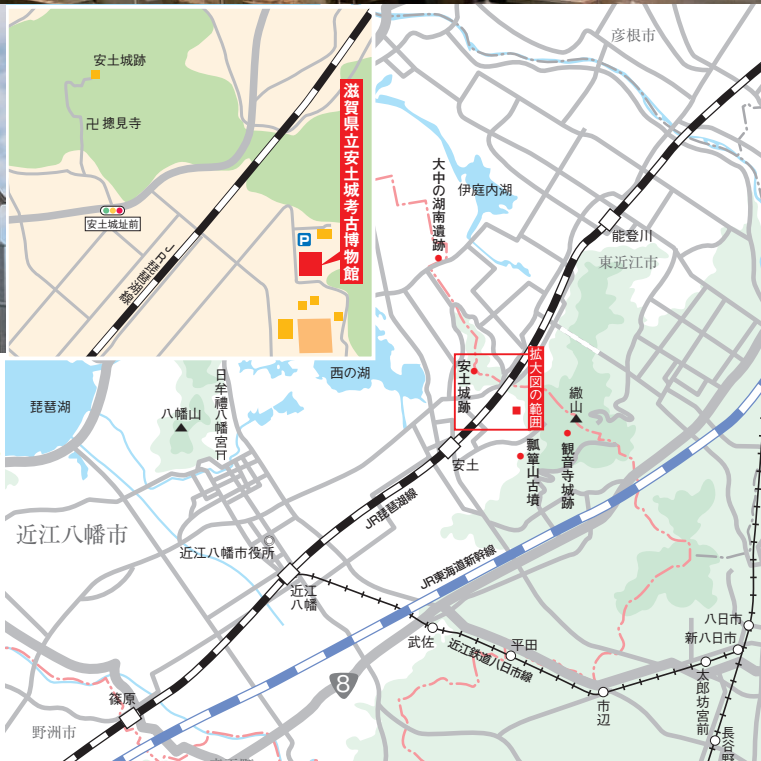
休 館 日 月曜日、12月28日～1月4日
※月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日

入 館 料 (通常料金) 大人500円、高大生320円、
小中生、県内在住の65歳以上の方、障害のある方は無料

駐 車 場 50台、バス13台

アクセス JR 琵琶湖線「安土駅」から徒歩25分／JR 琵琶湖線「安土駅」
からレンタサイクル9分

取材／編集部 写真／辻村耕司



開館当初は「信長ですつと特別展をやるよ、10年持たないよ」と言われていたのですが、おかげさまで30年は持っています。

三つの要望に応えて開館した安土城考古博物館

安土城考古博物館の歴史をさかのぼると、その前身として、「近江風土記の丘資料館」があったそうです。

高木「風土記の丘」というのは、地域にある史跡を保存・活用しようという文化庁の構想をもとに全国各地に設置された歴史公園です。最初が昭和41年（1966）に

宮崎県の「西都原風土記の丘」、翌年に和歌山県の「紀伊の国風土記の丘」、そして3番目が昭和45年の「近江風土記の丘」でした。国の特別史跡である安土城跡と史跡の瓢箪山古墳の間に位置し、それらの案内と出土品などを常設展示する資料館が、同年10月に開館しました。

近江の歴史と風土にふれる場となるよう、その前年には、公園内に旧宮地家住宅（長浜市）、旧柳原学校校舎（新旭町）、旧安土巡査駐在所（安土町）という三つの歴史的建造物が、県内から移築されています。開設にあわせて、織山にあった佐々木六角氏の居城である観音寺城跡も発掘調査されて、昭和57年（1982）に史跡指定され、近くの弥生時代の集落跡である大中

の湖南遺跡も昭和48年に指定されたので、対象とする史跡は四つとなりました。

この資料館の開館に先立って、同年4月に滋賀県と県内市町の出資で、財団法人滋賀県文化財保護協会が設立され、管理運営を受託しました。

滋賀県文化財保護協会との関係は、風土記の丘資料館の時代からなのです。

高木 それから20年近く経った昭和63年（1988）に、滋賀県は風土記の丘の再整備計画を策定します。資料館のリニューアルですね。

また、昭和48年度に始まった水資源開発公団による琵琶湖総合開発にともなう埋蔵文化財調査で見つかった大量の出土品を整理・収蔵する施設も必要となっていました。昭和55年（1980）に大津市のびわこ文化公園内に設けられた、滋賀県埋蔵文化財センターの分室にあたるものです。

さらに、平成元年（1989）から安土城跡では、県が調査整備事業に着手しており、その出土品の整理・研究・収蔵・展示の必要も出てきました。

単に風土記の丘資料館の後継施設というわけではないのです。

高木 最終的には、先にあげた三つの要望に応じて複合的な役割を担う施設として、安土城考古博物館は誕生しました。計画段階では「安土城郭・考古セン

※1 瓢箪山古墳 近江八幡市安土町宮津にある県内で最古級、最大の方後円墳。墳丘長162m。

※2 滋賀県文化財保護協会 滋賀県下の文化財を調査・研究・保護し、活用を図ることを目的に設立された財団法人（平成24年に公益財団法人に認定）。遺跡の発掘調査、県立施設の管理運営などをおこなっている。

→↓滋賀県立近江風土記の丘資料館の外観と展示のようす（滋賀県立安土城考古博物館提供）



↑現在の近江風土記の丘。写真中央が旧宮地家住宅（重文）



滋賀県立安土城考古博物館
学芸課主幹

高木叙子さん

たかぎ・のぶこ／1966年、大阪府生まれ。1992年4月、滋賀県立安土城考古博物館の開館の年に学芸員に採用。

ター」と仮称されていましたが、当時の稲葉稔知事が提案された名前に決まったと聞いています。

昭和の末から平成の初めにかけて、滋賀県内には、彦根城博物館（昭和62年）、野洲町立歴史民俗資料館（昭和63年）、大津市歴史博物館と栗東歴史民俗博物館（平成2年）と、歴史系の市町立博物館が次々開館していた時期で、そのほぼ最後にあたりますね。

高木さんは開館の年からですか。

高木 そうです。平成4年4月1日採用で

考古と戦国の二本立てのテーマ館

——開館は、その年の11月1日だったそうですが、いかがでしたか。

高木 開館当初はすごい人出で、1日3000人も人が来館なさいました。最近はその特別展の会期全体で5000、6000人です。翌年3月までの5か月で4万7000人程度。平成5年が7万8000人で、一番多かったのは平成6年で8万4000人。もとの風土記の丘資料館は年間1万人ぐらいましたから、大成功といえます。

当初から現在まで当館の傾向として、県外からの来館者が多いですね。開館特別展では、駐車場が埋まってしまつて、進入路のカーブの向こうに路上駐車するような方もいて、職員が飛んでいって移動してもらうようお願いするなんてこともありましたが、ネックは最寄りの安土駅からは徒歩だと遠いことで、最初の数年間は駅から館まで1日4〜5本のバスも運行してもらっていました。ただ、安土駅は滋賀県内で唯一路線バスの発着がない駅だったので、路線の延長として館前をバス停に加える形はとれず、県民の利用者も増えなかったので、批判が出て廃止されました。

す。生まれは大阪ですが、父が近江八幡の出身だったので、小学校6年生の時に滋賀県に移ってきました。

お城は好きだったのですか。

高木 いいえ、特には。大学は史学科でしたが、大学院までは平安時代の文献史が専門でした。それに当時の安土城は大手道も整備されておらず、自然歩道をじごく登ると石垣がある本当に古城という感じで、むしろ摺見寺跡から下りてくる石段の方が立派だったぐらいの印象でした。

——県内の小学校が見学に来る数は、いかがでしたか。

高木 開館当初はそれほど多くはなかったですね。学校関係は、学習指導要領の影響を強く受けます。平成12年（2000）ごろから総合学習が盛んになり、まがたまや火おこし体験などに訪れる小学校を積極的に受け入れていた時期もありましたが、10年ぐらいい前に指導要領が変わると、当館で半日過ごすような学校の滞在型利用は、ほとんどなくなっていましたね。

——開館時のお仕事で特に印象に残っていることはありますか。

高木 そもそも歴史系の学芸員の数自体が少なかった時代です。これは私だけでなく、当時開館した新設博物館で採用された学芸員の多くが経験したことだと思いますが、博物館のあり方や収蔵品の扱い方、他館との交渉の仕方というものを教えてくださる先輩学芸員がいなかったので、とても苦労しました。

織田信長の時代について必死で勉強して、開館から2年後の平成6年（1994）10月の秋季特別展「残照——本能寺からの織田一族——」で、企画や交渉などすべてを任せ



↑天皇后両陛下のご来館（平成6年、滋賀県立安土城考古博物館提供）

れました。その特別展がなんと行幸対象になったんです。天皇・皇后両陛下（現、上皇ご夫妻）がご視察になる場所の一つになったので、図録は1か月前には宮内庁に提出しなくてはなりませんでした。さらに展示の方も、県職員らが行幸当日の予行演習をするので、開催開始の3日前に完成してもらえないかと言われて（笑）。今は笑い話として語れますが、本当に大変でした。開館初期には、平成元年から始まった安土城跡の発掘は、まだそれほど成果があがっていませんでした。当時は伝羽柴秀吉邸あたりを発掘している段階で、天主も大手道もまだ先という状況だったので、発掘品で展示できるものはあまりなかったですね。その後発掘調査が進み、10年ほどたつと成果も上がり、平成11年（1999）に秋季特別展を兼ねた「安土城・1999」という発掘調査10周年成果展を開催できるまでになりました。

——初期の特別展は、むしろ考古関係のものが華やかだった印象があります。

滋賀県立安土城考古博物館と周辺史跡に関する年表

時代・和暦（西暦）		出来事
弥生時代中期初頭 （紀元前2世紀ごろ）		大中の湖畔の低湿地帯で集落が営まれる
古墳時代前期 （4世紀半ば）		織山の支脈尾根上に瓢箪山古墳が築造される
戦国時代	天文元年（1532）	近江守護佐々木六角氏が織山の観音寺城に12代將軍足利義晴を迎えるため、大規模な改修を実施
	天文19年（1550）ごろ	観音寺城の石垣が整備され、城構えが完成
	永禄11年（1568）	織田信長と敵対した六角義賢・義治父子が観音寺城を無血開城して逃亡
	天正4年（1576）	織田信長が安土山に安土城を築城
	天正13年（1585）	安土城が廃城となる
大正15年（1926）		安土城跡が国の史跡に指定される
昭和10～11年 （1935～36）		瓢箪山古墳で箱式石棺が発見され、発掘調査がおこなわれる
昭和27年（1952）		安土城跡が国の特別史跡に指定される
昭和32年（1957）		瓢箪山古墳が国の史跡に指定される
昭和39年（1964）		大中の湖干拓事業の過程で、集落遺跡が発見される
昭和44年（1969）		観音寺城跡の発掘調査がおこなわれる
昭和45年（1970）		4月 財団法人滋賀県文化財保護協会が設立される 10月 滋賀県立近江風土記の丘資料館が開館
昭和48年（1973）		大中の湖南遺跡が国の史跡に指定される
昭和57年（1982）		観音寺城跡が国の史跡に指定される
平成元年～20年度 （1989～2008）		滋賀県が安土城の発掘調査を実施
平成4年（1992）		3月 滋賀県立安土城考古博物館の建物が竣工 11月 滋賀県立安土城考古博物館が開館
平成18年～22年度 （2006～2010）		滋賀県文化財保護協会が第1期滋賀県立安土城考古博物館の指定管理者となる
令和3年（2021）		第4期滋賀県安土城考古博物館の指定管理者となる（～令和7年）

高木 もうご存じの方も少ないと思うのですが、県の基本方針として、当館はテーマ博物館であって、それとは別に滋賀県立歴
——開館以来の特別展は、春に弥生・古墳時代の考古、秋に戦国時代・城郭関係で、平成25年（2013）度から春・秋を入れ替えた形となっているのですね（7ページ
の表参照）。

高木 琵琶湖総合開発や住宅開発にともなう遺跡調査で次々発見もあり、展示の予算も十分にあったので、開館15周年目ぐらいまでは大規模な展示をおこなっていました。美術品輸送用のトラックを使って、関東方面の埴輪や九州の甕棺・銅鐸・青銅器などを2班に分かれて借りてきたり。
職員や技師の人数も多くて、文化財保護協会の宴会では席の端っこの人の顔が見えないぐらいでしたね（笑）。

史博物館が建てられる計画なんです。昭和60年（1985）に自然系と歴史系を合わせた総合博物館を建てる構想ができましたが、結局、自然系だけの琵琶湖博物館が平成8年（1996）に開館して、歴史系が置き去りにされている間に、市立や町立でどんどん立派な博物館がつくられていきました。かといって県は歴史系博物館の構想を撤回はしていません。
当館にはテーマ館だからその強みもあります。市町村立の博物館の場合、その市町村に関わるあらゆるテーマを扱わなければいけないので、全国有数のお城や古墳が

文書を通して見えてきた織田信長の実像

——令和4年度春の開館30周年記念春季特別展は、「戦国時代の近江・京都―六角氏
だつてすごかった!!」で、観音寺城城主

あるところの館でも、そればかり扱うわけにはいきません。戦国武將や城、古墳などをテーマに深く紹介している全国レベルの館は、ほとんどないように思います。
幸いテーマが二つともファンが多い分野ですから、交互にバランスよくやってこれたという感がありますね。それらでフォローできない時代やジャンルについては、年2回程度の企画展で補うようにもしてきました。
開館当初は博物館関係の先輩方から「信長でずっと特別展をやる」と、10年持たないよ」と言われていたのですが、おかげさまで30年は持っています。

の六角氏をテーマになさっていますね。

高木 六角氏の特別展は、平成7年と14年にも開催していますが、ずっと偽系図問題

がネックで、総花的な扱いしかできませんでした。それがこの10年ぐらいで、東京大学史料編纂所の村井祐樹さんなどの研究者が出てきて、ある程度、偽とそれ以外を分別できるようになり、六角定頼の位置付けなどの研究が格段に進んだんです。ですから、六角高頼・定頼・義賢の3代に絞ったものではないですが、今回の展示が六角氏関係では初めての本格的な歴史展示だったといえます。
——戦国大名の中では誰がお好きですか。
高木 よく聞かれるんですけど、好きになつてしまつてと盲目になつて研究できま

せんから。でも、やはり織田信長は興味深いですね。残された文書などを通して、一般的なイメージとはまったく違う人間だと感じています。

理想主義で人をすぐ信じては裏切られて。足利義昭にしても排除しようという気はなく、理想があると思っていた朝廷や幕府があまりにぐだぐだだったので、「何をやってるんだ」と諷めた資料が、権力を奪おうとしていると思われてしまった。どちらかというとと自らは引いて、天下静謐（てんかせいひつ）を目指していたように読み取れます。

対天皇や対幕府、宗教との関係、家族や一族との関係などすべて、一般に思われているものと実際はこのように違うんですよーというのが、私の展示の切り口でした。本来なら義昭を追いついたらすぐに將軍になれましたし、天正3年（1575）に官位を与えろといわれたときも、自分はまだ役目を果たせていないからと、家臣の秀吉らに官位などを授けてもらった。長篠合戦で武田に勝って表面的に歯向かう敵がなくなった天正3年11月になって、初めて官位をもらう。

一般に思われているように、將軍も天皇も全部蹴散（けち）らして自分がトップに立とうと思っていたのなら、元龜（げんき）争いが終わった時点で征夷大將軍の官職につくこともできますよね。それを一切せずに、全部それ自分から拒否しているでしょう。

そういう信長像は、中世は専門外だった私が、いくつもの展覧会を担当しながら勉強して、得た結論です。とくにそのきつかけとなった展覧会として印象深いのは、平成12年（2000）開催の秋季特別展「信長文書の世界」です。ですから、それ以前の図録では、私自身が今見直すと、「えっ」と思うようなことを書いているところもあ

ります。

「信長文書の世界」展で扱った信長文書では、信長は古くからのマナーやルールに従い、その秩序の中で相手との関係性を視覚的に知らしめるような紙の使い方や書札（しようれい）などを徹底して実践する人間でした。そうすると、一般に言われていた「古い因習や文書の様式を打破る人物」といった信長像というのは、信用できないなど。

それは来館者の方に伝わりましたが。

高木 わりに、おもしろがっていただけていると感じています。延暦寺の焼き討ちは、一般に宗教嫌いの信長による所業ととらえられていますが、実は特定の宗教を嫌っていることはなく、キリスト教への接し方も他の寺社に対するものとなんら変わりません。よく引用されるキリスト教の宣教師側が書いた報告書は、本国に向けて日本の権力者に気に入ってもらって、よくしてもらったというPRのために書かれているので。

一向宗（大坂本願寺）との対立にしても、一向宗すべてを否定しているわけではなくて、自分に反抗的だったり自分が掌握（しやうあく）したい拠点を押さえている勢力が一向宗だった場合にだけ戦っています。平成15年度の秋季特別展「信長と宗教勢力―保護・弾圧そして支配へ―」で紹介した「近江国栗太郡・野洲郡村々住民等起請文」（国立歴史民俗博物館蔵、通称「元龜の起請文」という文書があります。

元龜3年（1572）に信長家臣の佐久間信盛が栗太郡・野洲郡の村々に三宅（みやけ）や金

予算の削減が一番の問題

——今後の館としての課題は、どの辺になるのでしょうか。

高木 一番の問題は予算の削減です。現在の活動事業費は、開館の翌年度と比べると

※3 書札

書状を作成する際に守るべき儀礼。差出人と受取人の身分関係によって書き方や形態が細かく定められている。

※4 タイパ

タイムパフォーマンス（時間対効果）の略。若者世代を中心に短時間でより多くの情報を得ようとする動きが高まり、三省堂の『今年の新語2022』で第一位選ばれた。

森（ともに守山市）を拠点とした一向一揆に内通しない旨を誓わせたものです。これなどは、なるべく平和的な解決を図った証拠だと思うのです。村ごと焼け野原にしてしまつては、しばらくは税金も取れませんが、支配者としては、無傷で住民や田畑を手に入れようとするのが合理的な判断ですよ。

——信長を取り上げる上で、難しさはあります。

高木 信長は満48歳で亡くなっているので、資料が少ないんです。秀吉や家康になると、文書も多く、文化的な遺産、美術品も肖像画も残っています。一方、信長の遺品だとされるものの中には、確実なものほとんどありません。

もう一つは、研究と博物館における展示の違いですね。いくら研究で信長がこれこれこうしてこうなのでと論を立てたところで、それを展示資料で見てもらうことはとても難しい。実物資料と解説を見て、じっくり考えていただければ伝わると思いますが、時代はむしろ逆を求めていますよね。本や映画もあらすじだけとか、倍速でとか、タイパ（※4）がとか言われると、実物をじっくり見て考えてほしいという博物館のあり方と相いれない部分があつて。

どれくらい減っていると思いますか。

——4分の1とかになつていくんですか。

高木 どうしてわかるんですか。本当に4分の1以下になつていきます。

滋賀県立安土城考古博物館の春季・秋季特別展

年度	春季特別展	古代テーマ		戦国テーマ	
		秋季特別展			
平成4年(1992)		〔開館記念特別展〕 織田信長と安土城 信長の世界			
平成5年(1993)	湖と海の王 古墳時代の近江と越前・若狭・丹後	天下布武へ 信長の近江支配			
平成6年(1994)	弥生の祈り人 よみがえる農耕祭記	残照 本能寺からの織田一族			
平成7年(1995)	祭と政 古墳時代のまつりのかたち	観音寺城と佐々木六角			
平成8年(1996)	墓と弥生時代	元亀争乱 信長を迎え討った近江			
平成9年(1997)	物と人 古墳時代の生産と運搬	城下町の黎明 信長の城と町			
平成10年(1998)	ムラの変貌 稲作と弥生文化	琵琶湖と中世の人々 信長以前・信長以後			
平成11年(1999)	寧慮に違あらず 古墳時代の戦乱	安土城・1999			
平成12年(2000)	楽浪海中に倭人有り 2000年前の日本列島	信長文書の世界			
平成13年(2001)	韓国より渡り来て 古代国家の形成と渡来人	是非に及ばず 本能寺の変を考える			
平成14年(2002)	共に一女子を立て 卑弥呼政権の成立	近江源氏と沙沙貴神社 近江守護佐々木一族の系譜			
平成15年(2003)	日継知らず可王無し 継体大王の出現	信長と宗教勢力 保護・弾圧そして支配へ			
平成16年(2004)	日は人作り、夜は神作る 前方後円墳の出現と展開	戦国・安土桃山の造像 仏像彫刻・懸仏編			
平成17年(2005)	王権と木製威儀具 華麗なる古代木匠の世界	蒲生氏郷 戦国を駆け抜けた武将			
平成18年(2006)	吾、天下を左治す 大王と豪族	信長の城・秀吉の城 織豊系城郭の成立と展開			
平成19年(2007)	縄文から弥生へ 農耕社会の形成と美年代	戦国・安土桃山の造像Ⅱ 神像彫刻編			
平成20年(2008)	仏法の初め、茲より作れり 古墳から古代寺院へ	天下人を記る 神になった信長・秀吉・家康			
平成21年(2009)	大型建物から見てくるもの 弥生時代のまつりと社会	戦国の城 安土城への道			
平成22年(2010)	導水施設と埴輪群像から見てくるもの 古墳時代の王権とまつり	室町最後の将軍 足利義昭と織田信長			
平成23年(2011)	大岩山銅鐸から見えてくるもの	武将が継った神仏たち			
平成24年(2012)	湖を見つめた王 継体天皇と琵琶湖	信長×信玄 戦国のうねりの中で			
平成25年(2013)	しのぎをけつり、鐸をわり 近江の城、信長がとかく戦えり	夏季特別展		冬季特別展	
		華麗なる漁と美味なる食 魚・人・琵琶湖の過去・現在・未来		近江三都物語 大津宮・紫雲宮・保良宮	
平成26年(2014)	安土城への道 聖地から城郭へ	造形衝動の一万年 縄文の宇宙／円空の衝撃／アール・ブリュットの情熱			
平成27年(2015)	戦国合戦のかたち 川中島合戦から大坂の陣まで	倭五王 海を渡る			
平成28年(2016)	信長の家臣たち	飛鳥から近江へ 天智天皇の意図を探る			
平成29年(2017)	信長のプロフィール	青銅の鐸と武器 近江の弥生時代とその周辺			
平成30年(2018)	武将たちは何故、神になるのか 神像の成立から天下人の神格化まで	キミそっくりな古代人がいたよ 原始・古代の人物表現			
平成31年・ 令和元年(2019)	安土 信長の城と城下町	『動物美術館』開演！			
令和2年(2020)	信長と光秀の時代 戦国近江から天下統一へ	信長と光秀の時代 戦国近江から天下			
令和3年(2021)	びわ湖と城 信長・秀吉・家康の湖上支配	黎明 東西文化が共生した先史時代の近江			
令和4年(2022)	戦国時代の近江・京都 六角氏だってすごかった!!	里帰り！日本最大の銅鐸 太古の響きを安土の地で			

—— 小社は図録やポスターの入札にも参加してましたから。体感として、そんな感じかなど。つまり、県内印刷業者も影響を被っています。

高木 県内の印刷業者さんには影響が出ていますよね。コストダウンのために、印刷物のうちポスター・チラシ・チケットなどは完全原稿を内部で作成して、印刷通販サイト等に発注するようになりました。それまで外注していた展示パネルなども内部で大型プリンターを用いて印刷・貼込・裁断までしています。その分、職員の仕事量は増えています。

そうした状況は、令和2年（2020）に発行された金山喜昭編『転換期の博物館経営』（同成社）という本に「財団法人（公設）指定管理館の事例」の一つとして紹介させていただきました。1993年度の支出総額2億2800万円のうち活動事業費6500万円だったものが、2006年度には半分の3100万円になり、2016年にはそのさらに半分の1520万円になりました。この活動事業費で、展覧会やイベント、講座などすべてを賄わなければならないわけです。

予算が減れば、全国から展示品を借りて



↑開館当初の第2常設展展示室（滋賀県立安土城考古博物館提供）

これれず、お見せしたい展覧会の内容にすることは難しくなります。その一番大きな原因は、指定管理者制度です。当館は平成18年（2006）度から同制度が導入され、今期で4期目になりますが、最初は非公募でしたが、今回から公募になりました。ただ、受けることができそうなところは滋賀県文化財保護協会しか見当たりません。

指定管理者となった団体は、館職員の人件費だけを下げないわけにはいかなので、総支出の減少以上に活動事業費に影響が出てきます。NPOや単体の財団の場合、職員の給料を削っているという話も聞きます。直営の公立博物館であれば、そうした財政状態の問題を市や県に直接訴えることができるのですが、指定管理の場合はそれができません。

——そのわりには、きちんと定期的に企画展も特別展もやっておられますよね。

高木 もちろん指定管理者は、それをやるという条件で選ばれているのですから。なんとか維持しているのは、職員の努力や工夫でレベルを下げないように必死にやっているからです。

開館30周年の令和4年度秋季特別展「里帰り！日本最大の銅鐸」展では、目玉として東京国立博物館から野洲市出土の大岩山銅鐸などが里帰りしましたが、これも国の「国立博物館収蔵品貸与促進事業」として採択してもらえたので、最大銅鐸をふくむ6点の輸送費などが支出されて可能となりました。そうした助成金はあるだけで活用しています。

——特別展や企画展のテーマ設定にも影響していますか。

高木 テーマは5年計画を出します。指定管理者は、安さだけでなく企画した内容で選ばれます。ただ、その企画も、予算で可

能な範囲かどうかをよく考えないと。選ばれなかったら元も子もなくなるというジレンマの中で動いていますね。

ただ、これまでの活動のおかげで織豊系の資料がある全国の博物館とのつき合いは密になっているので、資料は借りやすくなりました。やっぱり10年くらい経てば、経験と人脈と信頼関係ができてくるので、予算が減った分をそれで何とかカバーしている感じですよ。

また、指定管理者制度が採用されて以降、博物館の存在意義などを問われる場面が増えたのですが、地元に着している市町村立と比べて、県立博物館というのは苦しい立場だなと感じます。「地元の博物館」として、市町村立館ほどの親密さを県民の皆さんとの間につくるのは難しい。

——連続講座などの状況はいかがですか。とても人気があると思うのですが。

高木 それはジャンルによりますが、現在は新型コロナウイルスのせいで定員を半減しなくてはならないという問題があります。セミナールームに並べた椅子を1mずつ離すと、140人定員だった会場が50人しか入れない。今年の10月から大きな講演会は70人にまで増やしましたが。

人気の講座は、固定客がすぐに押さえてしまうので、抽選をとという要望もあって、春季特別展で初めて抽選方式にしました。そのおかげで初めての参加者を増やすこともできたのですが、早くに申し込んで落ちた人からは批判も頂戴しました。難しいところですよ。

——平成31年（2019）から三日月知事発案の安土城天主「復元」プロジェクトが進んでいますね。

高木 県のプロジェクトですが、その一環で当館の修繕やリニューアルが進められそ

うなのは助かります。展示ケースの照明のLED化すらできていせんから。開館以来の30年、建物も設備も常設展示も、きちんと手が加えられていないので。そういう意味ではリニューアルを機に整えていたいただきたいところですよ。

天主の復元については、検討の結果、デジタルでの復元を目指すことになり、その成果を発表するためのシアターを、第1常設展示室に設ける計画のようです。

いずれにしても、リニューアル後は常設展示を「安土城と戦国時代」に特化するという方向を、県は打ち出しています。

——考古の部分はどうするんだということになりますね。

高木 その方向性を危ぶむ声もあります。考古資料を常設展示できる場がなくなるわけですし、収蔵の考古資料には重要文化財も多く含まれていますが、これらはどこでも保存管理できるわけではありません。まだ、その落としどころは決まっていません。

第1展示室を令和7年（2025）までに、第2展示室は令和8年以降の早期にリニューアルという計画のようですが、そうすると、第1展示室は今期の指定管理期間内ですね。どうなるのでしょうか。

時代が変わっても、博物館は本物を展示し鑑賞してもらう場であるはずなのですが、その考えはもう古いのでしょうか。さらに言えば、博物館はいま生きている人々だけのために文化財を保存したり、展示したりしているわけではない。将来に伝えていく義務を果たさなくてもよいのかとか……キリがないので、この辺にしておきます。

——お忙しいところ、本日は興味深いお話をありがとうございました。

徳川家康画像

滋賀県立安土城考古博物館 学芸課主幹

高木叙子のぶこ

安土城考古博物館では、織田信長だけでなく、その周辺の人物の資料も収蔵しています。今年、大河ドラマで注目を集めている徳川家康もその一人です。家康は、桶狭間合戦で今川義元が討たれたのを機に信長と同盟を結び、信長に対して戦国大名や家臣たちが次々と敵対し謀反を起こしていく中で、最後までよい関係を保持した人物でした。

その家康を描いた画像が、こちらです。しかしこの画像、信長や明智光秀・浅井長政など、他の人物の肖像画とは、明らかに違う点があることに気づきでしょうか。

一般的に歴史上の人物の肖像画は、亡くなった後に供養や礼拝のため描かれることが多く、たいていが最も晩年の姿で描かれます。そして当たり前ですが、「人間」の姿です。この家康像も、朝廷での正装である黒色の束帯をまとって右手に笏を持ち、上畳に坐る老人の姿なのですが、坐っている場所が特殊です。周囲は3面の鏡を備えた御簾や華やかな幕と紐で飾られ、前面は階段のある朱塗りの高欄に囲われた拝殿で、そこに狛犬が鎮座して

います。建物には墓股も見え、まさに神殿の建物。この家康は、そこに鎮座する「神様」なのです。

家康は、大坂夏の陣で豊臣秀頼母子を滅ぼした翌年の元和2年（1616）に亡くなりますが、遺言に従って遺体はその日のうちに駿府城から久能山（ともに静岡市）に移され、追って朝廷より「東照大権現」の神号が授けられました。一周忌の後に、遺体は日光（栃木県）に遷座します。これが日光東照宮の始まりです。

この家康を神とするもう一つの理由は、「金」の使い方です。鏡や金具などに表側から金箔や金泥が用いられて輝いているだけでなく、背景の水墨画や拝殿床面などは絵絹裏から金箔が施されています。このような手法は仏画や神像ではよく見られますが、基本的には「人間」を描く場合には用いられないものなのです。

この春に開催される、信長と家康を扱った特別展でも展示する予定ですので、実際にその違いを見に来ていただければと思います。



「国友一貫斎関係資料」重要文化財指定記念企画展

国友一貫斎

— 発明とその夢 —

2月4日(土)～3月26日(日)

長浜城歴史博物館

山縣岐鳳筆「夢鷹図」
(部分 個人蔵)

坂田郡国友村(長浜市国友町)に生まれた国友一貫斎は、鉄砲鍛冶職人であり発明家・科学者としても名高い人物です。その功績は、江戸時代における科学技術を語る上で不可欠なものと評価されています。

本展では、現存する一貫斎製作の反射望遠鏡4基すべて(前期のみ)をはじめ、近年の調査で確認された「阿鼻機流大鳥秘術詳細図」などの関連資料を紹介します。

入館料：大人410円、小中学生200円

会期中の休館日：なし

関連行事 特別講座

「時代を超えた科学・技術者 国友一貫斎」

2月19日(日) 13:30～

講師：富田良雄氏(元京都大学理学部)

会場：虎姫文化ホール(長浜市宮部町3445)

参加費：500円 ※要申込 長浜城歴史博物館まで

講座お申し込み・お問い合わせ先：TEL 0749 (63) 4611

滋賀県立琵琶湖文化館地域連携企画展
滋賀県立安土城考古博物館第67回企画展
琵琶湖文化館収蔵品にみる四季

2月4日(土)～4月2日(日)

滋賀県立安土城考古博物館

琵琶湖文化館収蔵品のなかから、近世絵画を中心にとりあげ、「作品に表現された季節の美しさ」に焦点を当てて紹介します。日本には春夏秋冬の美しさがあり、古くから絵画や工芸品に表現されてきました。本展を通じて、作品に表現された日本と近江の豊かな四季を感じていただきます。

した創作活動を続けたほか、高等学校の美術講師として後進の育成にも取り組み、昭和51年(1976)に設立された栗東町文化協会の初代会長に就任しました。

生誕120年を記念し、ふるさとを愛し見つけ続けたそのまなざしを紹介します。

観覧料：無料

会期中の休館日：月曜日、2月24日(金)

展示解説会 2月25日(土) 14:00～

お問い合わせ先：TEL 077 (554) 2733

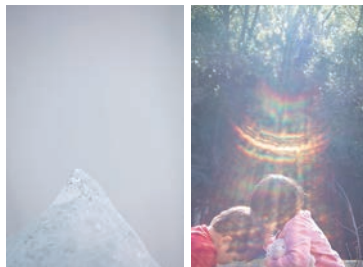
企画展

川内倫子：M/E

球体の上 無限の連なり

1月21日(土)～3月26日(日)

滋賀県立美術館

左〈無題〉2019、右〈無題〉2020
(シリーズ〈M/E〉より)

滋賀県生まれの写真家、川内倫子の作品は、柔らかい光をはらんだ独特の淡い色調を特徴とし、国内外で高く評価されています。本展は、故郷である滋賀では初となる大規模個展であり、タイトルでもある〈M/E〉は、2019年以降に撮影された新作のシリーズです。〈M/E〉とは、「母(Mother)」、「地球(Earth)」の頭文字であり、続けて読むと「母なる大地(Mother Earth)」、そして「私(Me)」でもあります。

アイスランドや北海道で撮影した火山や流水と、コロナ禍で撮影された日常の風景が並ぶ本展は、人間の命の営みや自然との関係についてあらためて問い直す機会となることでしょう。

観覧料：一般1300円、高大生900円、小中生700円

休館日：月曜日

お問い合わせ先：TEL 077 (543) 2111

企画展

三橋節子が描いた三つの世界

開催中～6月18日(日)

大津市三橋節子美術館

三橋節子「こがらしの詩」
(大津市三橋節子美術館蔵)

三橋節子は「野草の画家」とも称されるほど、人知れぬ野草を、生涯、数多く描きました。また、美術研修で訪れたインド・東南アジアに印象を強く受け、特にインドの人物画を描くようになります。そして34歳で腫瘍のため利き腕の右腕を失うと、絵筆を左手に持ち替え、近江昔話を題材とした情感にじむ絵画を残しました。

今回の展示では、節子が描いた「野草」、「インド人物画」、「近江昔話」の三つの世界をテーマに展示します。

入館料：一般330円、高大生240円、小中生160円

会期中の休館日：月曜日、祝日の翌日は休館

お問い合わせ先：TEL 077 (523) 5101

生誕120年記念

西田恵泉

— ふるさとを愛したまなざし —

開催中～3月5日(日)

栗東歴史民俗博物館

西田恵泉「麦秋」
(栗東歴史民俗博物館蔵)

栗太郡大玉村(栗東市)に生まれた日本画家・西田恵泉(1902～80)は、滋賀県の画壇の形成に尽力したほか、従軍画家としてフィリピンに赴いたことでも知られています。終戦後は、近江の風景を画題と



チャリ旅日記 1年目の旅編

滋賀の自宅から北海道まで

木野良介 著

四六判並製本 総366頁 非売品

問合先 長浜市七条町759 (著者)

自転車による日本一周を思い立った著者が、2018年5月から中部・関東・東北・北海道までを巡りながら、執筆を続けたブログ記事を加筆修正して収録。(2022.9.30刊)

一般社団法人ツカモト資料館・聚心庵 聚心庵の三十年

ひろのぶ
藤堂泰脩 著

A5判並製本 総148頁 非売品

問合先 ツカモトコーポレーション株式会社(発行所)

近江商人・塚本定右衛門家資料の保存を目的に、平成4年(1992)東近江市五個荘川並町に資料館として開館した聚心庵。30年の活動とともに塚本一族の業績を振り返る。(2022.12.10刊)



飛鳥春秋

『日本書紀』つまみ読み

岡本新也 著

四六判並製本 総206頁 2310円(税込)

Amazonでのみ販売中

『日本書紀』の飛鳥・藤原の時代を中心に「つまみ読み」しながら、日本という国が形作られていく過程を物語的にわかりやすく紹介。(2021.11.10刊)

佐保光俊集 近江

佐保光俊 著

四六判並製本 総142頁 非売品

問合先 岡山県岡山市北区小山 480-8 (著者)

篇の集へすこし波ある北湖かな——旧近江国を通る古道・街道歩きを趣味とするようになった岡山市在住の著者が、街道歩きや峠越えて目にした情景から生まれた句を収録。

(2022.12.15刊)



BOOKS

特別展示

「日本自費出版文化賞」作品と 滋賀県ゆかりの自費出版物

期間 開催中～2月2日(休)

会場 守山市立図書館

自費出版物を顕彰する「日本自費出版文化賞」(主管：NPO法人日本自費出版ネットワーク)受賞・入選作品などを展示します。



第25回 特別賞

やさしいネイチャー
ウォッチング

自然を守り育てる仲間づくり
村上宣雄 著



第5回 大賞

北近江 農の歳時記

国友伊知郎(吉田一郎) 著



第25回 入選

地図から消えた村

琵琶湖源流七集落の記憶と記録
吉田一郎 著



第19回 部門賞

近江絹糸「人権争議」はなぜ起きたか
近江絹糸「人権争議」の真実

朝倉克己 著



第25回 入選

朱兎象句集

山村修三 著

ほか、第24回以前の入選作品など、滋賀県ゆかりの自費出版物多数。手にとってお読みいただけます。

「日本自費出版文化賞」応募の詳細はこちら→

※小社が承った書籍を応募される方はご相談ください。
さまざまなアドバイスをいたします。



自費出版に関するお問い合わせ：サンライズ出版 TEL 0749 (22) 0627

入館料：大人600円、高大生360円、小中生無料
会期中の休館日：月曜日

関連行事 座談会

「新しい文化館と収蔵品を語る」

3月19日(日) 13:30～15:00

登壇者：和澄浩介 主任学芸員(琵琶湖文化館)

田澤 梓 学芸員(琵琶湖文化館)

福西貴彦 主査(滋賀県文化財保護課)

岩崎里水 学芸員(安土城考古博物館)

会場：安土城考古博物館2階セミナールーム

参加費：無料

定員：70名

お申し込み方法：

往復はがきによ

る事前申込制

(受付先着順)

お問い合わせ先：

TEL 0748 (46)

2424



山本梅逸筆「寒華傲雪図」
(滋賀県立琵琶湖文化館蔵)



水と生きる地域の力

たいこ
琵琶湖・太湖の比較から

楊平・嘉田由紀子 著

A5判並製本 総272頁 3080円(税込)

日本の琵琶湖と中国の太湖で実践されてきた、水辺を活用した複合的な生業と暮らしののあり方を記録してきた日中両国の研究者が、改めてコミュニティ主義の有効性を問う。

世界遺産学への誘い

位田隆一・真鍋晶子・青柳周一 編
A5判並製本 総288頁 3080円(税込)

彦根城の世界遺産登録に向けての機運を高めるべく、松浦晃一郎ユネスコ第8代事務局長をはじめ、世界遺産に関する諸テーマの第一人者を招き、2021年度に滋賀大学で開講された「世界遺産学」講義を収録。



桐一葉 鵜飼敏彦句集

鵜飼敏彦 著

四六判上製本 総248頁 2420円(税込)

「刎頸の朋の消息桐一葉」——書名のもととなった朝日新聞年間最優秀賞受賞作品など計437句を、巻頭句・春・夏・秋・冬・紀行句の6章仕立てで収録。小笠原好彦滋賀大学名誉教授が「序にかえて」を寄せている。

古文書解読 桜田事変の新史料

影印・翻刻 竹川竹斎『川船の記』付録『外桜田の大変』

岩田澄子・田久保國子 編、大久保治男 監修
A4判上製本 総136頁 4950円(税込)

動乱の幕末、竹川竹斎が自筆の茶書『川船の記』の中に秘匿・埋蔵した桜田事変の情報と、直弼の側近が収集記録した当時の風聞を収録。古文書解読の教本としても最適。



表紙写真 滋賀県立安土城考古博物館

編集後記 昨年4月から11月に大津市にある滋賀県埋蔵文化財センターで、「滋賀をてらした珠玉の逸品たち」と題して、1970～2019年の50年間に県内の発掘調査で見つかった出土品各年1点ずつが展示されました。夏休み期間におこなわれた来館者による人気投票では、「縄文のヴィーナス」と称される東近江市相谷熊原遺跡出土の土偶をおさえて、大津市滋賀里遺跡出土の土坑墓(人骨)が1位に。わかりやすい本物の力が発揮されたようです。㊥



琵琶湖の生物はいつ、どこからきたのか?

西野麻知子 編著

A5判並製本 総360頁 4400円(税込)

最新のDNA解析による分子遺伝学研究成果なども取り入れ、第一線の研究者25名が、琵琶湖の固有種をふくむ多様な動植物の進化プロセスに迫る。

近江学 第14号

成安造形大学附属近江学研究所 編
AB判並製本 総86頁 1980円(税込)

特集テーマは「禍転じて」。疫病や風水害などの自然災害に対して人々はどのように対応してきたのか?——コロナ禍で再び注目をあびた「角大師」の護符、疱瘡絵や大津絵などを読み解く。



家康と甲賀忍者・大原一族

おともはら
太伴原甲賀 著

四六判並製本 総224頁 2200円(税込)

甲賀忍者の末裔である著者が、口伝と歴史書をひもとき、徳川家康(2023年NHK大河ドラマ主人公)とそれを支える大原一族の姿を活写する痛快・歴史小説。家康と甲賀忍者・大原大和の人生が戦国の世に交錯する。

自費出版年鑑2022

NPO 法人日本自費出版ネットワーク 企画
サンライズ出版 編
B5判並製本 総128頁 2420円(税込)

日本で唯一の自費出版に関する年鑑。第25回日本自費出版文化賞の大賞受賞インタビューや、受賞作の内容、受賞者のことば、選考理由などを紹介する。第26回募集要項付き。



Duetの定期購読をご希望の方は、下記までお申し込みください。

〒522-0004 滋賀県彦根市鳥居本町655-1

サンライズ出版株式会社 Duet編集部

TEL (0749) 22-0627 FAX (0749) 23-7720
(振替) 01080-9-61946

インターネットでDuetがお楽しみいただけます。

<http://www.sunrise-pub.co.jp/>

お申込先